



SQUADRA CORSE

2015年9月8日

FIA-F4 第4大会（鈴鹿サーキット）レビュー

篠原拓朗が決勝レース 2 で再び 8 位入賞。コスタは追突されるも無事完走。

■大会概要

開催地：三重県・鈴鹿サーキット（一周：5.807km）

開催日：2015年8月29日（土）～30日（日）

■大会結果

・19号車：篠原 拓朗

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第7戦予選：8番グリッド

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第8戦予選：10番グリッド

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第7戦決勝（規定周回数：10周、最大30分間）：18位

8月30日（天気：晴れ／路面：ウェット） 第8戦決勝（規定周回数：10周、最大30分間）：8位

・63号車：ニコラス・コスタ

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第7戦予選：17番グリッド

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第8戦予選：15番グリッド

8月29日（天気：晴れ／路面：ドライ） 第7戦決勝（規定周回数：10周、最大30分間）：13位

8月30日（天気：晴れ／路面：ウェット） 第8戦決勝（規定周回数：10周、最大30分間）：24位

■大会レビュー

2015シーズンのFIA-F4第4大会は8月29～30日、三重県の鈴鹿サーキットで35台の参加により実施され、VSRランボルギーニ・スクアドラ・コルセ・フォーミュラ・ジュニア・チーム（VSR Lamborghini Squadra Corse Formula Junior Team）は、14シーズンのスーパーFJのもてぎと東北の両シリーズで王者に輝いた篠原拓朗（しのはら たくろう／20歳）と、12シーズンのフォーミュラ・アバルトでヨーロッパとイタリアの両シリーズで王者に輝いたニコラス・コスタ（Nicolas Costa／23歳・ブラジル）を起用する2台体制で挑みました。

19号車の篠原は29日(土)午前に実施された予選で、ベストタイムに基づき第7戦決勝レースの8番グリッド、セカンドベストタイムに基づき第8戦決勝レースの10番グリッドを獲得しました。迎えた29日(土)の第7戦決勝レース、スタートを無難にまとめ、8番手のままレースを開始した篠原は、3周目に前をいくマシンをパスして7番手に浮上。しかし、4周目には再び抜き返されて8番手に戻りました。しかも4周目終了間際のシケインで、後続車がインを刺そうとして止まり切れずに篠原のマシンにダイブするような形で接触。篠原のマシンはコースアウトしてしまいました。相手の選手には危険走行としてレース後にタイムペナルティが加算されました。篠原はなんとかレースに復帰したものの27番手までドロップ。そこから猛然と追いつき、結果的に18位完走となりました。

30日(日)のレースではスタートをうまく決め7番手までポジションをあげたものの、途中ヘピンでアウトにはらんだところを刺され、8番手にドロップ。そのまま最後まで走り切ってチェッカーを受けました。

63号車のコスタは29日(土)午前実施された予選で、第7戦決勝は17番グリッド、セカンドベストタイムによる第8戦決勝は15番手からのスタートとなりました。迎えた29日(土)の第7戦決勝レースは、スタートをうまく決め、前方の混乱に乗じて1周目を13番手で通過。2周目に1台に抜かれ、14番手。4周目に再びパスして13番手に戻り、6周目には篠原のアクシデントによる遅れによって12番手に浮上。さらにポジションをアップしてポイント圏内でフィニッシュかと思われた最終ラップのシケインで後続車両に接触され、コスタのマシンは大きく宙に舞い、着地。コスタは360度スピンをさせ、3輪車の状態でチェッカーフラッグを受けました。レース後、接触相手に危険行為のペナルティが出たため、正式なレース結果は13位完走となりました。

なお、FIA-F4第5大会は9月19日(土)～20日(日)に宮城のスポーツランド菅生で開催されます。

■コメント

・19号車：篠原 拓朗

「今回の鈴鹿に関しては、本当にいろいろ悩んでしまいました。練習では、本気で走っているのにタイムが全然出せなかったのが、予選を前に大幅にセットアップを変更してもらいました。一か八かでも、これ以上悪くなることはないだろうと考えたからです」

「結果的にはそれが功を奏して8番手のタイムを出すことができました。そのレベルで喜んでいてはダメなんですけど、もしこのセットを金曜日に見つけていれば、レースは全然違ったものになったはずですよ」

「第7戦は後ろからスカッドミサイルに撃墜された気分でした。何もできないままコースアウトし、なんとか追いついてチェッカーを受けましたが、ポイントも見えていただけに残念な結果です」

「第9戦はスタートもうまくいき、7番手を走っていたのですが、少しヘピンでアウト側にはらんだら刺されてしまいました。自分自身、今考えてみると守りに入ってしまいましたね。攻めの走りになっていなかったと反省しています。次の菅生はもっともっとアグレッシブに攻めるつもりです。東北スーパーFJチャンピオンの僕にとっては得意なサーキットですから、頑張ります」



© 2015 VSR Lamborghini Junior Team

・63号車：ニコラス・コスタ

「鈴鹿はまったく初めてのサーキットですし、自分は時間的な問題で事前に走行ができないと知らされていたので、ザップスピードにあるシミュレーターに通って練習をしました。鈴鹿サーキットの特徴は、自分の得意とするタイプのコーナーも多く、かなり期待はしていました。木曜日の走行からイメージと実際を修正しながら合わせていき、大きな問題はなかったのですが、予選タイム的には厳しいものがありました」

「第8戦はスタートをうまく決め、2周目には13番手まであがりました。中団のバトルは厳しく、タイム的には逆にトップグループから離されてしまう形になってしまいましたが、それでもポイント圏内は見えていました」

「しかし最終ラップのシケインで後方から飛び込んできたマシンと接触し、僕のほうは高く空を飛んでしまいました。着地してアクセルを全開にしてスピントーンをし、ゴール方向にマシンを向けてなんとかチェッカーを受けようと頑張りましたが、あとでマシンを観たら3輪車のような状態になっていました」

「第9戦までに、チームのメカニックたちが素晴らしい仕事してくれたおかげで、マシンの修理が間に合いました。本当にチームのみんなに感謝しています」

「レースはウエット路面で、僕にとっては恵みの雨だと思ってスタートしたのですが、逆に各コーナーでスライド状態になり、まったくアクセルを開けられない状態でした。何が起こっていたのかはデータでチェックするしかないですが、コース上にとどまるのが精いっぱいという状況でした。結果は24位と、自分自身納得がいかない週末になってしまいました」



© 2015 VSR Lamborghini Junior Team

以上

この件に関するお問い合わせ : VSR Lamborghini Squadra Corse 事務局

machida.vsr@gmail.com